

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 高陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	講演会 1・2学年生徒全員（560名）、保護者2名 実技交流会 バレーボール部（男女）生徒（25名）、保護者3名 ※その他の生徒は見学のみ可
3 展開の形式	() 教科で実施 教科名 () (○) 教科以外で実施 (特別活動(LHR))
4 目標(ねらい)	学校でオリンピック・パラリンピック教育を実施することで、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、児童生徒のスポーツに対する学びを深める。
5 取組内容	・講演会（60分） ・実技交流会（60分）
6 主な成果	生徒アンケート結果から、ほとんどの生徒の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に留まらずオリンピック・パラリンピック、ひいてはスポーツの意義や価値等に対する理解・関心を高める事ができたと考えられる。 また、スポーツの域を超え、高い目標をもって努力することの大切さなど、自分自身の生き方における教訓とした生徒が数多く見られた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	・導入として、事前に体育科授業（体育理論）でオリンピックの意義についての指導を行った。 ・講演会だけでなく実技交流会も実施し、一流選手のプレーを目の当たりにすることで講演会の内容の一層の深化を図った。
8 主な課題等	・保健体育科授業はもちろん、他の教育活動との関連が少なく、今回の取組が単発に終わっている感が否めない。学校の教育活動全体と今回の取組の関連を調整する必要があるが、年度途中での希望調査のため、総合的な学習の時間等、すでに昨年度末に計画が立てられている教育活動に計画を変更して実施することは困難。 ・希望では講演会2時間程度の導入及び実技1時間の交流を経たのち、体育理論の授業として各講座1時間要望していたが、講演会1時間、実技1時間と大幅に圧縮され、これ以上の展開を図ることが難しい。
9 来年度以降の実践予定	・総合的な学習の時間との関連を検討。 ・保健体育科授業でのスポーツの意義や価値等に対する理解・関心をより一層深めるプログラムの開発。